イタヤハムシ

春から夏にイタヤカエデの葉を食べるイモムシ（幼虫）または甲虫（成虫）．食害により葉は穴だらけになる．

幼虫は春に発生．最大長約１0mm，黄色で多数の黒い斑紋がある．あるいは全体的に黒っぽい．イボ状の脚（腹脚）はない．尾端は吸盤状．成虫は体長７～９mm，黄土色．夏に発生．

ときどき多発し，春の幼虫の食害により葉がほとんどなくなることがある．被害木は夏までに新しい葉を開き回復する．成虫の夏の食害量は少ないようである．

１．幼虫，体長10mm．2000/6/12，北見市，イタヤカエデ．

２．成虫，体長9mm．2000/8/24，中川町，イタヤカエデ．

【学名】 *Pyrrhalta fuscipennis*

【分類】 甲虫目（Coleoptera），ハムシ科（Chrysomelidae）

【特徴】

よく似た昆虫にニレハムシやサンゴジュハムシなどがある．

ニレハムシはニレを，サンゴジュハムシはサンゴジュやカンボクを食べる．

【生態】

主にイタヤカエデを食べるが，ダケカンバ，ハンノキ，ナナカマドにも寄生するといわれている．

年１回発生．卵越冬．幼虫は５月に孵化し，葉を食べて成長する．６～７月に幼虫は地上に降りて土中に潜って蛹になる．成虫は８～９月に出現し，葉を食害する．雌成虫は卵は樹皮の割れ目などに産み付ける．

【被害と防除】

北海道内では多発は１～２年で終わっており，木が衰弱したり枯れた報告はない．防除は普通必要ないと考えられる．ただし，春と夏とに２回食害が続いて起これば，木にかなり大きなダメージを与えると思われる．夏の成虫の食害が目立たない原因を調べておく必要があるだろう．

庭などの小さな木で食害が気になるときは幼虫や成虫を捕って駆除する．

【文献】

1994．奥田素男．イタヤハムシ．小林富士雄，竹谷昭彦，編集，森林昆虫，総論・各論: 356-357．養賢堂，東京．（形態，生態，防除）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

イタヤハムシ hamusi/itayaham/
kaisetu.htm
「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/7/27.
yochu.JPG，seichu.JPG
「写真１～２」 原秀穂，北海道立林業試験場，2000.